

# 文教協会報

No.691

(令和8年5月)

令和8年度 大垣市学校教育指導の方針と重点【概要版】…………… 2  
令和7年度 大垣市教育実践研究論文 …………… 3～6



令和8年4月3日（金）転入教職員・新規採用教職員のつどい（大垣市情報工房）

<基本理念>

みんなが学び交わり成長する 文教のまち大垣～次代を拓く「人」づくり～

<基本目標1>

多様な人々との協働を足し、他を思いやり、共に支え合う心豊かな子どもを育成します

■方針

全ての子どもが安心して学べる環境をつくるために、発達支持的生徒指導を充実させ、いじめや不登校などの課題に対しても適切に対応し、一人ひとりの多様なニーズに寄り添った教育支援体制の充実に取り組みます。

■重点

- 1 全ての子どもを対象とした発達支持的生徒指導の充実
  - (1) 子どもにとって安全・安心で「明日もまた行きたい」と思える学校づくりの充実
  - (2) 互いを認め合い、温かい居場所となる学級経営
  - (3) 一人ひとりに寄り添い、心をつなぐ教員相談の充実
- 2 特別活動を核とした自治力が向上する活動の充実
  - (1) 自らを尊重し合い、自分たちの手で学級や学校を創る活動の充実
  - (2) 自分らしい生き方を実現し、未来に希望を育てるキャリア教育の充実
- 3 自他を大切にすることを教育の充実
  - (1) 法教育(大垣モデル)授業の推進
  - (2) 情報モラル教育の充実
  - (3) 道徳教育の充実
  - (4) 人権・同和教育の充実
- 4 特別な支援を要する子どもへの早期からの切れ目ない支援の充実
- 5 外国につながる子どもへの日本語指導の充実
- 6 学校いじめ防止基本方針に即った対策の推進
- 7 不登校対応の充実
  - (1) 不登校傾向の子どもが「学びたい」と思ったときに学べる場の確保
  - (2) 心の小さなSOSを逃さない、「チーム学校」で支え合う支援体制の確立

■方針

子どもの実態に応じた授業改善を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していきます。また、探究的な学びを充実することで、子どもが各教科の学びを生かして、創造力を発揮することができるようしていきます。

■重点

- 1 焦点化・具体化を図った指導改善の全校体制での推進
- 2 「個別」と「協働」を往還し、主体的・対話的に学びを深める学習活動の推進
  - (1) 自ら学びに向かう力を育む学習の個性化(個別最適な学び)
  - (2) 一人ひとりの資質・能力を育む指導の個別化(個別最適な学び)
  - (3) 学びがより深まる価値ある対話活動(協働的な学び)
- 3 総合的な学習の時間における探究的な学習の一層の重視
- 4 幼保小連携・小中連携の推進
- 5 指導力向上のための校内研修の充実

■指標

- 1 去年受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたと実感している子どもの割合(%)
  - R7実績値 84.2 ▶ R8目標 84.9
- 2 学習の内容や目的に合わせてICTの活用場面やその方法を自分で判断している子どもの割合(%)
  - 基準値:75.8 ▶ R8目標 80.0

■研究指定

学向上推進校 R7～8 墨島小、南中  
探究的な学び推進校 R8～9 上石津学園、興文中

<基本目標3>

グローバル化に対応した教育を推進し、ふるさとに愛着と誇りをもつ子どもを育成します

■方針

大垣市では、「ふるさと大垣科」及び英語教育の更なる充実を重点置き、ふるさとに愛着と誇りを持ち、グローバル化のさらなる進展が予想される未来社会をたくましく生きる子どもを育成します。

■重点

- 1 「グローバル人材の育成」
  - (1) 大垣市に愛着と誇りをもつ「ふるさと大垣科」の更なる充実
  - (2) “世界に飛び出す”大垣の子どもを育てる英語教育のさらなる充実
- 2 国際理解教育の推進



■指標

- 1 地域や社会をよくするためのめかしてみたいと思っ  
う子どもの割合(%)
  - R7実績値 80.5 ▶ R8目標 78.2
- 2 CEFRのA1レベル相当以上の英語力を有する  
中学校3年生の割合(%)
  - R7実績値 86.0 ▶ R8目標 80.0

■研究指定

コミュニケーション能力育成(英語)推進校 R8～9 中川小

<基本目標4>

豊かな学びを支える教育環境を整備し、健康でいきいきと活動できる子どもを育成します

■方針

子どもがいきいきと活動できる基礎となる、健康でたくましく身体づくりを推進するとともに、教職員もいきいきと働けるよう、学校や地域の教育環境を整え、豊かな学びを支える風土を醸成する取組を推進します。

■重点

- 1 先生という仕事の魅力を高め、子どもに還元する学校づくりに
  - (1) 子どもが「先生という仕事」の魅力を感じる仕組みづくり
  - (2) 教職員が子どもと向き合う時間を生み出す体制づくり
  - (3) 子どもの尊厳を守り抜くための組織体制の強化
- 2 「つい、やりたくなる」仕掛けによる体向上的な推進
- 3 生活習慣の見直しや食育等の健康教育の推進
  - (1) 生活習慣の定期的な見直しを図る取組
  - (2) 子どもの実態に応じた食育等、健康教育の推進
- 4 「想定外」をなくすための危機管理体制の充実
  - (1) 「実効性のある危機管理マニュアル」の運用
  - (2) 防災教育の充実
- 5 学校・家庭・地域の協働による教育の推進
- 6 部活動の地域展開
  - (1) 休日の部活動の地域展開
  - (2) 学校と地域クラブとの連携の構築

■指標

- 1 運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合(%)
  - R7実績値 58.0 ▶ R8目標 59.2
- 2 時間や心にゆとりをもって子どもにも向き合えていると感じる教員の割合(%)
  - R7実績値 64.7 ▶ R8目標 70.0

■研究指定

体力向上推進校 R7～8 興文小

子どもも 先生も 「明日もまた行きたい学校」に

研修校 興文小、興文中、東小、東中

## 令和7年度 大垣市教育実践研究論文

3月11日（水）に、令和7年度大垣市教育実践研究論文表彰状伝達及び奨励金交付式が行われ、細江教育長から表彰状と奨励金が授与されました。入賞者は次のとおりです。

- 戸田氏庸賞 1名
- 優 秀 賞 3名（連名1組）
- 優 良 賞 10名
- 奨 励 賞 33名



【当日、出席された受賞者による集合写真】

### <戸田氏庸賞>

学校名 氏 名	教科・領域	研究主題
上石津学園 田中 紗里	理科	生活・社会・未来へとつながる「探究的な学び」の創造 ～探究でつなぐ義務教育学校の理科実践を通して～



### <優秀賞>

学校名 氏 名	教科・領域	研究主題
北小 末松 英恵	社会科	社会科学習における新たな問いを見いだす力を育成するカリキュラム開発 ～児童の発想と社会科の見方・考え方を接続する三単元を通じた縦断的实践～
江並中 高木 一範 安田 和司	その他	仲間と共に課題解決をし、「人と関わる楽しさ」を実感できる生徒の育成 ～SGEの実践と社会的自立を支えるスキルとの関連について～

### <優良賞>

学校名 氏 名	教科・領域	研究主題
興文小 田中 宜子	外国語	主体的・対話的な活動を通して系統的な学びを構築する英語科学習 ～児童の「知りたい!」「伝えたい!」思いから生まれるコミュニケーション能力の育成～
興文小 平下 愛弓	国語科	言葉への着目による考えの深まりと意見を交わすことの楽しさを感じられる授業実践 ～叙述を根拠とした話し合い活動の位置付け～
東小 三木 凱斗	社会科	小学校社会科歴史分野における中核的な概念を軸としたカリキュラム開発 ～時代間の比較・関連付けを通して生きて働く知識を形成する授業と見学学習の統合～
江東小 増田 知里	算数科	算数科における主体的に学習に取り組む態度の育成 ～最適な交流活動の形態と個人追究の在り方～
中川小 坂井 心	特別活動	道徳科および特別活動における他者理解を深める指導の在り方 ～ソーシャルスキルトレーニング・価値付け活動を組み合わせた実践を通して～

### <優良賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
興文中 北川 俊介	技術・家庭科	「学習の個性化」を活かした主体的な生物育成の学習 ～小集団での対話によって学びを深める工夫～
東中 太田 勇治	特別支援	自閉症・情緒障がい学級における納得のいく進路選択ができる生徒の育成 ～3年後を見据えた自立活動の実践を通して～
北中 豊島 沙耶佳	外国語	協働的な学びを充実させるための小集団交流を活かした授業づくり ～話すことの高めるための授業実践～
星和中 田川 元貴	数学科	主体的に学びに向かう生徒の育成 ～「学びのマップ」の活用と「問題の選択」を通して～
上石津学園 樋口 万莉奈	健康安全	義務教育学校における児童生徒の歯磨き習慣の定着と 歯科健康向上にむけた保健指導の実践とその効果



### <奨励賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
西小 杉山 大知	学級経営	小学校通常学級における発達支持的生徒指導を推進していくための学級経営 ～相互依存型集団随伴性とトークンエコノミー法を組み合わせた実践を通して～
北小 櫻井 詠乃	保健体育科	体育における主体的で深い学びにつなげる指導 ～ICTを活用した課題の可視化と振り返りの積み上げを通して～
北小 白木 晴菜	保健体育科	仲間とともに運動の楽しさや喜びを感じるネット型ゲームの実践 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
北小 福田 涼平	外国語	外国語におけるタブレット端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践
日新小 浅野 太志	特別支援	主体的に活動に取り組めるようにするための支援の在り方
安井小 井戸 思花	道徳	登場人物の心情に寄り添い、道徳的価値を主体的に考え、表現する児童の育成 ～発問の工夫や役割演技を取り入れ、自分も相手も大切に授業づくり～
安井小 長谷川 大貴	特別活動	仲間とともに主体的によりよい生活を目指す児童の育成 ～学級への所属感を感じる話し合い活動の工夫～
安井小 服部 真己	特別活動	学級全員が楽しめる活動づくりを目指した話し合い活動の工夫 ～小さな声も生かされる話し合いの手立て～
宇留生小 市原 克臣	算数科	知的障がい特別支援学級における算数科の授業改善 ～ICTと具体物活用による効果～
宇留生小 宇野 那奈子	算数科	児童の主体性を伸ばす授業の工夫 ～前向きに課題解決できる児童の育成を目指して～
宇留生小 森田 恭也	算数科	算数科を通じた児童の育成 ～児童が主体的に学びに向き合い、学習を自己調整できる授業作りを目指して～

<奨励賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
静里小 井上 詩織	特別支援	自分の気持ちを伝えることができる子の育成活動 ～自立活動に遊びの活動を入れた活動を通して、相手や自分の気持ちを相手に伝える～
川並小 平木 優圭	算数科	主体的・対話的に学ぶ児童の育成を目指して ～児童が見方・考え方を働かせるための指導の工夫～
中川小 大山 香月	算数科	根拠を基に考えを説明する力を育む算数科学習の工夫 ～情報整理・見通し・言語化・関係付けを位置付けた授業改善を通して～
中川小 月岡 拓郎	学級経営	常態的・先行的生徒指導による自己肯定感や自己有用感の向上を目指して ～好循環をもたらすための3つの取り組み～
小野小 石黒 功祐	算数科	自分の学びの段階を理解し、主体的に対話に臨む学習集団の在り方 ～目的意識と対話を増やすことを通して～
小野小 中野 礼菜	保健体育科	ゲーム展開を見通し、位置や動きを判断する力を育てる指導の工夫 ～空間認識能力の育成を目指して～
小野小 名和 蒼惟	外国語	主体的にコミュニケーションを図る能力育成のための授業改善 ～場面設定・個別最適な学び・評価の工夫の実践研究～
荒崎小 勝野 陽太郎	算数科	数学的に考える楽しさを実感できる算数の授業 ～数学的活動の楽しさや数学のよさに気付ける支援の工夫～
赤坂小 田中 優月	生活科	気付きの質を高め、生活を豊かにしようとする力を育む生活科学習指導の工夫 ～気付きを生み出す・自覚する・深める の3つに視点をわけた手立てを通して～
青墓小 梅田 千春	外国語活動	どの児童も英語の学習に主体的に取り組める授業 ～視覚的情報の活用と学習形態の工夫を通して～
青墓小 岡本 有美香	生活科	児童の幸せな人生の土台をつくる生活科 ～あらゆる繋がりに感謝！学びが連続して止まらない！生活科を核にした学校生活づくりを通して～
墨俣小 中村 美月	国語科	論理的に思考し表現する児童の育成 ～言葉を手掛かりにした主体的・対話的で深い学びのある国語の授業づくりを通して～



<奨励賞>

学校名 氏名	教科・領域	研究主題
興文中 高田 晃成	総合学習	学びを生活や将来に生かす生徒の育成 ～総合的な学習の時間における探究的な学びを通して～
東中 中島 誠弥	数学科	集団の学び合いから個の学びにいかす数学教育 ～「交流や振り返りカード」の活動で、仲間と学び合うことができる数学科授業～
東中 山本 拓真	社会科	生徒が自ら考え、仲間とともに学び合いながら、考えを深め合う社会科指導 ～多面的な視点を生かして地域的特色をつかむ地理的分野「中部地方」の学習～
南中 古山 智基	技術・家庭科	ICTを活用したプログラミング能力を育てる授業づくり ～計測・制御システムについて理解する～
南中 柳沼 至	美術科	対話とICTで繋ぐ美術科の学び ～鑑賞活動の充実と学習意欲の向上を目指して～
赤坂中 田鳥 成美	社会科	主体的・対話的に課題を追究し、自己肯定感を高める生徒の育成 ～多面的・多角的に事象を見つめるための指導の工夫～
西部中 小林 平	理科	学ぶ楽しさを実感し、主体的に学び続ける生徒の育成 ～実物による体験と小集団学習を活用した授業～
西部中 高橋 可奈	外国語	言語活動を通して「楽しい」と感じ主体的にコミュニケーションを図る生徒の育成 ～言語活動の充実と「できた・わかった」と実感する授業づくり～
西部中 細川 智絵	国語	言語活動がもたらす社会生活とのつながり ～中学校第3学年「読むこと」の実践において～
星和中 水野 桃佳	外国語	仲間の意見を取り入れながら、自分の意見を伝えることのできる生徒の育成 ～文生成に立ち返りながら言語活動を行い、「できた・分かった・使えた」が実感できるための手立てとその実践～

